

民研だより

民主教育研究所
Research Institute of Democracy and Education

No. 144
2020年6月10日

CONTENTS



- ◆ オンラインかオンデマンドか——話し言葉と書き言葉 …… 金馬国晴 1
- ◆ 特集「コロナ禍と子ども・教育・学校」
 - 休業中の夜間定時制 …… 松岡 元 3
 - 休校中のわが家の様子 …… 伊藤 綾 4
 - 子どもの思いを尊重し、柔軟な対応を工夫していこう 小寺隆幸 5
 - 市民や子どもの「学びの場」をどう保障するのか …… 朝岡幸彦 6
- ◆ 「第29回全国教育研究交流集会in那覇」案内 …… 7
- ◆ 日誌、寄贈図書等 …… 8

オンラインかオンデマンドか ——話し言葉と書き言葉

金馬国晴(横浜国立大学)

コロナ禍のもと、かなり多くの大学は早々4・5月に、前期・秋口までの遠隔授業化を決めた。各大学の教員は、オンラインやオンデマンドの授業を準備していった。全国の小中高校は遅くとも6月から再開された一方で、多くの大学のキャンパスは学生の原則立入禁止措置が未だ続き、授業のみ、いわば「バーチャルな空間」を使って実施することになったわけだ。

オンデマンド授業の活用 ——コメントの付け合い

多くの大学には授業支援システムなどというものが、教材・音声・動画を載せてレポートを書かせる“オンデマンド授業”ならすぐできる条件があった。だが、横浜国大でいえば2割の教員しか使ってこず、初めて全教員が使うしかなくなっ

たわけだ。どの大学でも、研修会や情報交換会が何度となく繰り返された。

自分も初めて全ての機能を知った。レポートにあたるものを書き込ませ、学生がコメントを書き加え合える「ディスカッション」機能が、自分が対面授業でやってきた「回し読み討論」を実現するものと思った。少なくとも3人に、と指示しても、5人以上や十数人に書き込む学生も現われている。記事やブログへのコメント機能(ヤフコメなど)に近いからか楽しいようだ。

オンライン授業——その広がりと淋しさ

他方で、オンライン授業については、私も初めてZoomを知った。実態は、討論をちゃんとした科目(指導生ゼミや演習、大学院のように)でなら、使う教授は目立つようだ。だが、必修科目は

横浜国大教育学部でいえば 60 人や 120 人にのぼるし、学生のネット環境からして奨められないと、研修会では議論がされた。

とはいえ私は、指導生ゼミの2科目、学部の5科目、大学院の1科目、非常勤の2科目の計 10科目で、フルに使っている。本学では原則カメラオフ、マイクもはじめはミュートとの方針がある。学生の反応が見えないし、名前だけでは顔もわからず覚えられはしない。パソコンの画面に向かって数十分間語り続ける形になって、淋しさも沸いてくる。テレビやラジオでリスナーの声が読まれるのは、その克服策かと思う。

両者の比較と「自習力」

——学生の声や様子から

そこで機会あらば、学生に感想をきくようにした。伝わってきたのは、オンラインを楽しみにしている、オンデマンドよりいいといった声だ。出席をとらずとも出席率がいいとの事実もある。オンデマンドは、好きな時間にレジュメやパワポ、動画を見てレポートが書ける。確かに気楽であるものの、逆に自分のペースが作れる学生しか続かない。通信教育や放送大学と同様、修了率がとても低いと聞く。無理もない。やる気ある学生はなんでも続くが、そうでないなら、モチベーションは上がらないし保てない。対面でさえそういう学生がいるのだから、「自習力」や「習慣」がいるオンデマンドのレポート課題に答え続けられる学生は全員ではない。

書き言葉、話し言葉

——どう違ってどういいか

オンデマンドは書き言葉を駆使させる。その特徴は、再開後の小中高校の教室で、話し言葉は感染リスクがあるため、レポートを書かせて回し読み、書き込み合いをさせよという例に通じる。ある研究会で教育心理学者が、書き言葉中心の授業は、じっくり思考が働くからいいと言っていた。だが、書き言葉は学校言語といわれるように、

ハードルが高いと思う子がいる。小1にオンデマンド授業が酷なのも、書き言葉がまだ使いこなせず、使いこなす力は何年もかかって育つからだろう。

ここで、オンライン授業を好む学生の心を察するに、書き言葉を読んだり、それで交流したりするより、話し言葉をネット越しであれ聞いたり、自ら口に出したりして交流したりの方が楽なのだろう。オンラインは、目の前にいる人に話すわけでもなく、身体的でもないものの、ふとしゃべった一言でやりとりが始まり、いつの間にやら盛り上がりもする点で楽しくもあろう。少なくとも自習を励ます点に期待ができる。

だが結局は、どちらがいいかは学生や子ども、個々人によるようだ。とくに不登校や学校不適応の子にとって、オンデマンドは参加しやすいという。「個別最適化」ということだろうか。

理想はミックスか？——今後の展望

いや理想は、オンデマンドもオンラインもミックスした授業ではないか。書き言葉で書けたレポートを話しましょうとか、話したことをレポートに書いて下さいとか言って、多種の言葉をミックスしていく試みだ。オンデマンドであれオンラインであれ、それぞれふさわしい時に使い、ときに組み合わせる授業が理想的だろう。様々な言葉を組み合わせ、総合していくと、個別最適化にはとどまらず、(仮想であれ)集団でやりとりする機会ができ、必要にもなる。オンラインでの発言に苦手意識のある学生も多いが、小グループに分ける機能も使いこなし、かつすでに書いたレポートを読み上げるだけにするなどして、一言ふた言でも声が出せるよう工夫したい。その上でまた、ふりかえりを書き言葉へと表現してもらおう。その繰り返し、「経験の連続」を図る。そうすると、オンライン・オンデマンドの授業は、新しいというだけでなく、従来のやり方ともミックスになる。そのメリットとデメリットをも、今この時期に見極めてみたい。

休業中の夜間定時制

松岡 元（子ども研究委員会幹事）

管理が強まる

「卒業式は職員と卒業生だけで」の通知があった2月25日がコロナの第一撃だった。定時制の生徒職員の総数は、全日制生徒の数よりはるかに少ないのだから、例年通りにできないかとの質問に「県からの指示だから」と議論は全くなかった。27日学校休校令。入試業務で3月は授業がない。学年末考査も終わっているし、影響は殆どないと高を括っていた。むしろ進級がかかっている生徒にとっては幸い。追試がなく、課題をやれば進級させてもらえるかもしれないと思った（実際そうだった）。残念だったことは部活ができないこと。いや、その時点で部活や休校よりもずっと気がかりだったのは、学校管理がコロナ禍で強化されないかだった。職員勤務管理システムが導入され。出退勤時にICカードで打刻することが3月2日、休校と同時に始まったからだ。

3月8日15時開始の卒業式はあっという間に終わった。握手、記念撮影、名残惜しい別れ等一切ない淡々とした卒業日であった。一人の女生徒が泣いていたという報告が唯一の慰めのように思えた。送迎で来た彼女の兄（本校の卒業生）は校内に入れず、校外の駐車場の車で待っていた。校内の駐車場だとなぜダメだったのだろう。

4月5日の学校名、性別、20代既婚者と感染者が特定される報道はショックだった。人権侵害ではないかと同僚と話し合った。と同時に、自分が、職場の生徒、同僚が罹患したらどう報道されるのかと不安になった。が、次第に麻痺していっ

たような。

生徒とのつながりは

4月7日緊急事態宣言。臨時休校は5月6日まで。生徒はどんな生活を送るのだろうか。給食を食べられない生徒。部活の大会、就職活動はどうなるのか等の会話が出た。

5月1日、Google classroom の学習会が行われ、早速多くの担任が使用し始めた。学校に繋げておくために情報を発信提供するというのは建て前で、動画を作成配信することが楽しいという。教員はエンターテナーの要素も必要だと感じた。しかし、生徒たちの反応は芳しくはない。開いている生徒は約半分。内容によっては数名。IN環境がないと時間がかかる。アクセスできない、やり方が分からない（外国籍の生徒）。課題だと邪推し無視したり通信量が足りない者。でも一番の理由は「面倒くさい」だろう。小中学校と不登校の経験がある生徒は昼夜逆転している者が多く、休業はあまりストレスを感じていないようだ。彼らとの会話から推測するに、夜間定時制の生徒にとって、学校は教科の勉強をするところというより、人と会う場、会話する場、お互いに学びあう場なのだ。学校は毎日登校するからこそ意味があると心底感じる。

5月25日緊急事態宣言解除の翌日、面談のため登校してきた生徒にきいてみた「6月1日、みんな来るかな?」。曰く、「絶対来ますよ。みんな暇してますから」。school の語源を思い出してしまった。

休校中のわが家の様子

伊藤 綾 (民研・事務局)

突然休校が始まった3月初旬、私は娘の保育園の卒園式になんとか両親揃って参列できないものかと、園長や区の担当者との話し合いに頭がいっぱいで、小学4年生の息子のことはほったらかしでした。宿題がほとんどでなかったこともあり、最初の頃は毎日友だちと公園やグラウンドで遊んでいたようですが、近所の方から注意を受けるようになって、家でオンラインゲームやYouTubeを見る時間が増えていきました。

卒園式は望む形ではなかったけれど、親子とも思い出に残る良い式になり、あとは入学式を待つばかりと思っていたところ休校延長が決まった。入学を楽しみにしていた娘は寂しそうでした。入学式と始業式が行われた日、5年生になった息子が大量の宿題を持ち帰り、はじめのころは、一日のスケジュールを組み、午前中は勉強、午後は軽い運動などをして、充実した一日を過ごそうと張り切りました。でも「今日は何するの？ 明日は何するの？ えー、また同じ、つまらない」と毎日のように言われ、更に夫が体調を崩して、もしかして感染したのではという不安も重なり「もう勝手にして!」と度々子どもに八つ当たりをするようになってしまった。そして3月はひとりで自由に過ごしていた息子も、急に私が在宅勤務となったために、私から口うるさく言われるようになったり、外で友だちと遊べなくなったことからストレスを時折爆発させた。それはそれは騒がしい日々でした。

大量の課題が道徳含む全教科

再度の休校延長が決まると、更に宿題がどさどさ出され、教科書やインターネットを使った調べ学習は、慣れていない子どもがひとりでやるには難しく、また習っていない問題は私が教えていたのですが、直方体の展開図？ 見取り図?...他にもすぐには答えられないものも多く、1日分を終

えるのに何時間もかかりました。疲れて不機嫌になる子どもとの言い争いも増え、宿題が終わるとお互いにぐったり。

1年生の宿題は多くはなかったけれど、自主学習が曲者で、同級生がもう掛け算までやったと聞くと、せめて足し算くらいはと焦るあまり、娘を何度も泣かせてしまいました。「10っていくつといくつ」をわかりやすく説明することがこんなに難しいとは思わなかった。思えば、この休校中、私が一番宿題に追われていたかもしれません。

少人数で学校再開

6月1日、待ちに待った学校がついに再開されました。1クラスを4分割し、1日おきに半日だけの登校ですが、給食も提供されました。1年生は休憩時間も教室で本を読んだりして過ごし、友だちと喋ってはいけないそうです。それにマスクで顔を覆っているの、「クラスメイトがどんな顔かよくわからない」と言っていました。でも悪いことばかりでもなく、一クラスの人数が少ないので、勉強が苦手な息子は、わからないところを丁寧に説明してもらえたと喜んでいました。2週間だけでなく少人数授業をずっと続けてほしいです。

以前より窮屈な学校生活になったにもかかわらず、それでも、お友だちができたよと笑顔で帰ってきた娘や「まあまあ楽しかった」と言った息子に逞しさを感じ、日常が戻りつつある喜びをかみしめました。



子どもの思いを尊重し、柔軟な対応を工夫していこう

小寺 隆幸 （教育課程研究委員会）

3密を徹底的に避ければ息苦しい学校に

学校が再開し、手探りの取り組みが始まっている。その基準とされるのが文科省が5月22日に示した衛生管理マニュアル『学校の新しい生活様式』だ。そこでは今後長期にわたって「3つの密を徹底的に避ける」とされる。それは社会における感染防止の基本ではあるが、学校現場に対する教育的指針ではない。例えばマニュアルには「休憩時間においても体が接触するような遊びは行わないよう指導する」とある。教師は休み時間にも「ぶつかるな」「近づくな」「手をつなぐな」と注意しまくるのだろうか。友達と触れあい遊ぶ体験は子どもの成長に欠かせない。それを禁じる息苦しい学校ではストレスが高まり、いじめや不登校にもつながりかねない。

「3密を避ける」のはなぜか

社会生活で「3密を避ける」のはクラスターを発生させないためである。学校でも同じ対策を取るのは、①子どもも密集すれば感染が広がる、②感染すれば病気になる、③家庭で高齢者にうつす、というリスクがあるからだろうか。

だがこのマニュアルにも「学校における集団発生報告は国内外においても稀であり、小児の発生割合、重症割合ともに小さい」と記されている。それは日本小児科学会が5月20日に出した医学的見地からの報告に基づいている。そこでは、15の学校で合わせて教師9人生徒9人の感染者がいて863人と濃厚接触したが、感染が確認されたのは生徒2人だけだったというオーストラリアの事例も紹介されている。また中国でも欧米でも感染した子のほとんどは無症状か軽症で、欧米で一部に川崎病の症状が出たと報じられたが、国内ではないという。

「3密を避ける」のは中に感染者がいることを想

定するからである。確かに子どもの中に感染者がいる確率はゼロではない。しかし上記のように、子どもは感染しても人にうつす可能性は低く、たとえうつってもインフルエンザよりもリスクは小さい。それなのに過度に「友達と手を握るな、感染するかもしれない」と言えば、すべての人が怖いという感情を子どもに植え付けかねず、また感染者に対する差別意識を生む。

子どもたちと一緒に考えるべきは③である。感染を自分が怖がることはなくても、お年寄りを守るために自分も気をつけようという意識を子ども一人ひとりに育むこと、行動規制ではなく内面から変えていくことが教育の仕事である。

今こそ30人学級を

このマニュアルで腹立たしいのは、教師にこのような「徹底」した指導を押し付ける一方で行政の責任を放棄していることである。今後長期にわたり「3密を避ける」というのならば、行政が真っ先に行くべきは条件整備である。学級定員を30人以下にすると決断し、第2次補正予算に教員増や教室確保を組み込むべきであった。それをせず、マニュアルでは座席間隔を1mとる教室配置を工夫しろと現場に求めるが、人数が多く不可能な場合は「間隔に一律にこだわらず、柔軟に対応」しろとごまかす。

『学校の新しい生活様式』の基本は30人学級実現である。そのことを行政に要求しつつ、感染症のリスクについて教師集団が保護者・子どもと共に学びあい、子どもによりそう「柔軟な対応」を工夫することが求められている。



市民や子どもの「学びの場」をどう保障するのか —新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と「共存」する社会への模索—

朝岡 幸彦（運営委員 東京農工大学）

「国難」や「緊急事態」、はては「戦争」という言葉によって、市民の活動が大幅な制限を受けている中で、市民や子どもが「学ぶ」ことはこの次であるかのような雰囲気があります。学校の「休業」だけは子どもたちの「学習の遅れ」が問題となり、一刻も早い学校の「再開」が期待されていることは確かです。また、安倍首相は5月4日の記者会見で「この13都道府県（特別警戒都道府県）におきましても、8割の接触回避のお願いをいたしますが、博物館や美術館や図書館などの使用制限を緩和したい」と述べ、一定の条件をつけて「再開」することを認めようとしています。しかしながら、公民館や図書館、博物館、動物園・水族館といった社会教育施設で市民や子どもたちが「自由」に学び、活動することはまだまだ先のこと、後回しにされやすい危険性があります。

こうした状況の中で、日本環境教育学会は、3月7日に発表した理事会の緊急声明において、「子どもたちが外で遊ぶ権利」を保障することが教育上も重要であるとの立場から、屋外での子どもたちの活動を促す3つの措置を求めました。

新型コロナウイルスに関連した感染症対策への対応に関する緊急声明（要旨）

「子どもたちが『外で遊ぶ権利』を最大限保障してください」

2020年3月7日

一般社団法人 日本環境教育学会 理事会
子どもたちの心身の発達にとって、自然環境の中で学び・遊ぶことは極めて重要です。感染の拡大を抑制するために「風通しの悪い空間で人と人が至近距離で会話する場所やイベントにできるだけ行かないこと」が求められており、環境教育事業等が実施される子どもたちの日常生活圏内における野外・屋外活動が機械的に「中止、延期」されていることは大きな問題です。

こうした状況に鑑み、日本環境教育学会として政府並びに自治体・教育委員会、及び子どもを

預かる各種施設や家庭等のみなさんに、「子どもたちが『外で遊ぶ権利』を最大限保障」することを求めます。とりわけ、現下の状況における緊急対応として、以下の3つの措置を求めます。

- 1 学校等の敷地内における屋外での子どもたちの活動を可能な限り認めること
- 2 公園や里山等を活用した屋外での事業を可能な限り継続し、新たな事業への公的支援を検討すること
- 3 自然学校等における事業や環境教育イベント等への影響を調査し、多大な損失が発生した場合には公的な支援を検討すること

(<http://www.jsfee.jp/general/403>)

今後の状況は予断を許しませんが、政府は「The Hammer and the Dance」と呼ばれる基本方針で臨んでいると言われております(<https://www.covid19-yamanaka.com/content/main.html>)。これは、強力な対策（人と人との接触を80%以上減らす）を行う「The Hammer」段階と、ウイルスとの「共存」を前提とする（接触を60%以上減らす）「The Dance」段階を繰り返すことで「終息」を図ろうとするものです。大切なことは、こうした政策は緊急事態宣言が解除されても元のように活動できない、おそらく1年以上の長期にわたって続けざるを得ないということです。おそらく緊急事態宣言が解除された後も、新型コロナウイルス感染症対策専門家会議が提起した（2020年5月4日）「新しい生活様式」の実践例(<https://www.mhlw.go.jp/content/10900000/000627553.pdf>)を踏まえながら、長期にわたる新型コロナウイルス（COVID-19）との「共存」を前提にしながら、市民や子どもの教育・学習活動を実践する必要があると見られます。

まさに、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）と「共存」する社会の中で、どのように「学び」を継続・発展させることができるのか。私たちは歴史に試されているような気がします。



民主教育研究所
からのお知らせ

子育てと教育に 「命どう宝」を根づかせる —人権と平和の教育をとらえ直そう—

第29回 全国教育研究交流集会 in 那覇

2020年11月28日(土)29日(日)
沖縄大学(那覇市)

はじめの集い 28日(土) 13:00~17:30

第1部 問題提起 全国から沖縄へ 民研代表・梅原利夫
沖縄から全国へ 沖民研所長・長堂登志子
講演 沖縄の子ども・青年の貧困化と教育の課題
(講師交渉中)

第2部 シンポジウム 沖縄から日本の教育をとらえ直す
上間陽子(琉球大)、下地治人(沖縄歴教協)
安藤聡彦(埼玉大)、中村清二(大東文化大)

分科会 29日(日) 9:30~16:00

- ① 子ども・若者の育ちと主権者教育
- ② 学力向上策と道徳教育の教育課程
- ③ 子育てと学校づくり・教職員の働き方
- ④ 性とジェンダー平等の教育
- ⑤ 平和教育の創造
- ⑥ 基地・環境問題と教育
- ⑦ 自治体づくりと教育・住民運動

共催:民主教育研究所、沖縄県民間教育研究所
沖縄県民間教育研究団体連絡会

後援:おきなわ住民自治研究所、おきなわ子どもを守る会

民研日誌 3～5月

- 3月 2日 三役・事務局会議
人事委員会
- 3月10日 小中一貫教育研究会
- 3月14日 運営委員会
- 3月16日 教育のつどい実行委員会
- 3月17日 『人間と教育』編集委員会
- 3月26日 道徳教育プロジェクト
- 4月14日 三役・事務局会議
- 4月17日 オンライン『人間と教育』編集委員会
- 4月18日 教育課程研究委員会
- 4月22日 監査委員会
- 4月23日 三役Zoom会議
- 4月27日 「環境と地域」教育研究委員会
- 5月 3日 教育行財政研究委員会
- 5月 9日 オンライン運営委員会
- 5月16日 教育課程研究委員会
- 5月20日 自治体問題研究所総会へメッセージ
- 5月22日 『人間と教育』出張校正
- 5月25日 「環境と地域」教育研究委員会
- 5月27日 コロナ感染拡大問題に関する全教の提言
記者発表
- 5月29日 三役・事務局Zoom会議
入館団体会議
オンライン『人間と教育』編集委員会

寄贈図書・資料 3～5月

- ◆ 震災と学校のエスノグラフィー
清水睦美 妹尾渉 日下田岳史 堀健志
松田洋介 山本宏樹 勁草書房
- ◆ 13歳からの天皇制
堀新 かもがわ出版
- ◆ 北朝鮮墓参記
岩元昭雄著 鹿児島子ども研究センター編 南方新社
- ◆ 国家と教育 愛と怒りの人格形成
中嶋哲彦 青土社
- ◆ 大学1年生からの社会を見る眼のつくり方
大学初年次教育研究会著 大月書店
- ◆ 部活動 指導・運営 ハンドブック
監修 社団法人 日本部活動指導研究協会
大月書店
- ◆ 教育心理学
心理科学研究会編 有斐閣選書
- ◆ 21世紀の新しい社会運動とフクシマ
後藤康夫/後藤宣代編著 八朔社
- ◆ 週刊東洋経済 特集 小学校 4/11
東洋経済新報社
- ◆ 小さな学びを創る共同
社会教育・生涯学習研究所年報第15号
社会教育・生涯学習研究所
- ◆ 登校拒否・ひきこもりからの“出発”
前島康男 東京電機大学出版局
- ◆ 「関さんの森」の奇跡
関啓子 新評論
- ◆ 「歴史総合」の授業
歴史教育者協議会編 大月書店

季刊『人間と教育』を発行しています

1192円＋税 全国の書店で販売 民研で購読も可能 (年間5000円 (送料込) 1部1255円)

- ◆ 106号 <2020年夏>
特集Ⅰ 教育は測れるか
——数値化・標準化される教育
特集Ⅱ 子どもの命を守り、権利を社会に根づかせる
- ◆ 105号 <2020年春>
特 集 大学はどこへ行く？
- ◆ 104号 <2019年冬>
特 集 総点検！日本のジェンダー問題
- ◆ 103号 <2019年秋>
特 集 子ども「が」消える!?



賛助会員 加入のお願い

民主教育研究所は

全日本教職員組合の組合員と賛助会員によって、財政が支えられ運営されています。真理と真実に基づき、研究を通して広く教育に携わる者の実践を支え励ます拠点として、1992年に設立されました。8つの研究委員会と「道徳教育プロジェクト」によって、研究が進められ、研究と実践をまとめた『年報』や季刊『人間と教育』を発行しています。

賛助会員になると

季刊『人間と教育』、「民研だより」(年4回)を無料で自宅に郵送。民研発行の書籍を各1冊、半額で購入可。

民研だより No.144 2020年6月10日

発行 民主教育研究所 発行責任者 梅原利夫

〒102-0084 東京都千代田区二番町 12-1

全国教育文化会館 5F

TEL 03-3261-1931 Fax 03-3261-1933

Email office@min-ken.org

HP https://www.min-ken.org

